

## 終助詞「よ」「ね」の接続形の分布と用法特徴について

## —大規模コーパスによる検証—

千葉 庄寿 (麗澤大学)

schiba@reitaku-u.ac.jp

## 1 はじめに

最近の語用論的な研究において、現代日本語の終助詞「よ」「ね」は提示する情報がそれぞれ話し手、聞き手の管理下にあることを述べる働きをもち、[+話し手][+聞き手]という単純な素性で記述できることが論じられている(滝浦 2008)。これらは相互に矛盾しない素性であり、接続形「よね」はこれらの組合せの結果として自然に説明できる。実際、金水・田窪(1998)をはじめとする多くの分析において、接続形は「よ」と「ね」の統語的組合せであると論じられている。

一方で、丸山(2007:38)が「(「ね」の)出現頻度や話者による発話数の違いなど、実際の使用実態については明らかにされていない」と述べている

ように、終助詞や接続形「よね」の分布が「よ」「ね」のそれとどの程度符合するか、コーパスを用いた検証はおこなわれていない。

## 2 BCCWJ のデータ概観

本研究では、「ヨネ」(およびその変異形「よねえ」「よねえ」「よねー」「よね～」)を除く接続形はデータから除き、「ヨ」「ネ」が単独で出現している場合、および2つが接続する場合のみを考察の対象とする。以下の表1は、考察対象となる終助詞が『現代日本語書き言葉均衡コーパス』BCCWJ (2011年正式公開版, 前川 2006)のサブコーパスに於いてどのように異なるかを示したものである。

表1: BCCWJにおける終助詞「よ」「ね」とその接続形の出現分布

ジャンル		ヨネ /百万語		ヨ単独 /百万語		ネ単独 /百万語		合計 /百万語	
流通 実態	書籍 (図書館/LB)	3,215	105.9	47,346	1,558.5	41,772	1,375.0	92,333	3,039.3
	新聞 (PN)	39	28.5	364	265.7	406	296.4	809	590.5
生産 実態	書籍 (出版/PB)	2,909	101.9	33,396	1,169.7	27,837	975.0	64,142	2,246.7
	雑誌 (PM)	1,095	246.6	6,294	1,417.6	6,706	1,510.4	14,095	3,174.6
非母 集団	ブログ (OY)	7,156	<b>702.3</b>	30,069	<b>2,950.8</b>	46,384	<b>4,551.9</b>	83,609	<b>8,205.0</b>
	ベストセラー (OB)	393	105.1	8,157	<b>2,181.0</b>	6,875	1,838.2	15,425	4,124.3
	国会会議録 (OM)	554	108.6	4,373	857.5	7,114	1,394.9	12,041	2,361.0
	広報誌 (OP)	54	14.4	507	134.8	709	188.6	1,270	337.8
	教科書 (OT)	20	21.5	567	609.7	437	469.9	1,024	1,101.1
	白書 (OW)	0	0.0	2	0.4	9	1.8	11	2.3
	知恵袋 (OC)	11,715	<b>1,141.8</b>	44,623	<b>4,349.2</b>	42,820	<b>4,173.5</b>	99,158	<b>9,664.5</b>
	韻文 (OV)	3	12.0	503	<b>2,012.0</b>	102	408.0	608	2,432.0
合計 *平均		27,153	*215.7 /百万語	176,201	*1,458.9 /百万語	181,171	*1,432.0 /百万語	384,525	*3,106.6 /百万語

※ 「/百万語」の列の値は百万語あたりの出現頻度に平準化したもの。また同列の「合計」欄には平均値を示している。

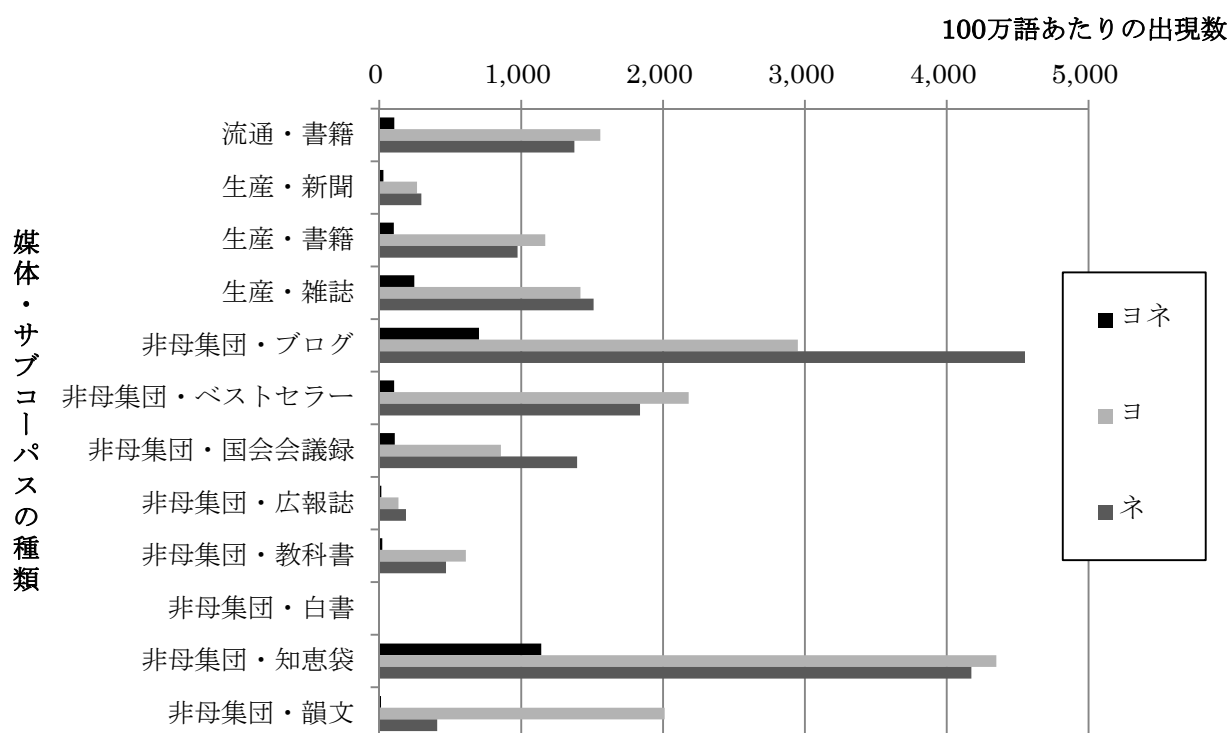


図1：各サブコーパスにおける終助詞「よ」「ね」および接続形の分布(100万語あたり)

表1からわかるように、「ヨネ」「ヨ」「ネ」とも、話し言葉に近い特性を示すとされるブログ(OY)やWebページのQ&A(OC)において出現率が高くなっている。

では、2つの終助詞の出現傾向はどの程度類似しているのだろうか？図1のグラフはサブコーパス間の3つの終助詞の出現パターンを、出現頻度を100万語単位で平準化しグラフにしたものである。ジャンルによって「ヨ」「ネ」の使用比率は大きく異なっている。「ヨネ」の出現頻度は概して単独の「ヨ」「ネ」より低く、一般に話し言葉の特徴が強いと考えられる媒体のデータ(表1の網掛け部分)でのみ出現頻度が高い傾向にある。

### 3 話し言葉のコーパスとの比較

さらに、書き言葉の均衡コーパスであるBCCWJの出現比率を話し言葉のコーパスと比較すると、表2のようになる。『日本語話し言葉コーパス』(CSJ) 第2版(2008年公開, 752万語, 3,302データ)<sup>1</sup>と『BTSによる多言語話し言葉コーパス—日本語会話1』(BTS, cf. 宇佐美(2007))の改

訂版データ<sup>2</sup>(人手修正済み, 約40万短単位)を比較している。

表2：各コーパスにおける終助詞「ヨ」「ネ」とその接続形の出現分布

コーパス		BCCWJ	CSJ 講演	BTS 母語1
形態素数		10,493 万語	101 万語	40 万語
単独	ヨ	176,201 (16.79)	617 (6.11)	1,916 (47.9)
	ネ	181,171 (17.26)	6,701 (66.35)	3,018 (75.45)
接続	ヨネ	27,153 (2.59)	508 (5.03)	1,467 (36.68)
合計		384,525	7,826	6,401

※ 括弧内は1万語あたりに平準化した出現頻度

講演(CSJ)に比べ、対話(BTS)において接続形ヨネの出現比率が高く、またヨとネの出現数の合計も後者のほうが多い。特に「ヨ」は講演での使用頻度がBCCWJよりも低い結果となっている。

これに対し、「ヨネ」の分布特徴は話し言葉に

において特徴的であることがわかる。

- 接続形ヨネの直前に現れる品詞はヨに比べてかなり限定されている。ネとはあまり似ておらず、前項のヨに類似する。語彙についても同様であり。これらの観察は滝浦(2008)の「{命題+前項}+後項」のシンタグマティックな構造を支持する可能性がある。
- 両コーパスとも、ヨの単独での出現数に比べて接続形ヨネの頻度が比較的高い。
- 対話コーパスに比べ、講演コーパス(CSJ)においてネの単独での出現比率が低い (cf. 丸山(2007)の「デスネ」の間投用法)。
- 滝浦(2008)の「依頼形に接続する終助詞」の例のように、接続形としてあってもおかしくない結合が、会話コーパスには実際にはごく少数しか現れない。以下のように「ヨネ」が依頼形に接続する形式は、BCCWJ のみに見られる。

- (1) 「だから、いつ放送なのか、ハッキリしてよねー。」(ブログ OY04:06760)

同様の傾向は、いくつかの「ヨネ」が接続する用言の種類に見られる。

BCCWJ の特定のサブコーパスに特徴的に現れる「ヨネ」の連鎖の出現傾向が、会話コーパスの分布と異なることは、何を意味するのであろうか。本発表では、コロケーションとしての接続形の生起傾向、特に用言の語彙特徴や文のタイプの検証から接続形に独自のパターンを見つけることができることから、少なくとも一部の接続形の用法は「よね」=「よ」+「ね」という従来の分析の枠組みでは説明できないと考える。

これらの結果に基づき、本発表では、接続形の文法上の位置づけの議論だけでは「ヨネ」の用法の特徴は十分に説明できないこと、また大規模コーパスを用いた語彙情報の分析が、定性的な意味分析に頼ることの多い文法的な要素の分析に役立つことを主張する。

## 参考文献

- 伊豆原英子 (1993) 「終助詞「よ」「よね」「ね」の総合的考察—「よね」のコミュニケーション機能の考察を軸に—」『名古屋大学日本語・日本文化論集』1: pp.21-34. 名古屋大学留学生センター.
- 伊豆原英子 (2003) 「終助詞「よ」「よね」「ね」再考」『愛知学院大学教養部紀要』51/2, pp.1-15. 愛知学院大学教養教育研究会.
- 宇佐美まゆみ (2007) 『基本的な文字化の原則 (Basic Transcription System for Japanese, BTSJ)』2007 年 3 月 31 日改訂版. URL: <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj.htm>
- 金水敏・田窪行則 (1998) 「談話管理理論に基づく「よ」「ね」「よね」の研究」堂下修司ほか編『音声による人間と機械の対話』オーム社, pp. 257-271.
- 国立国語研究所 (2006) 『日本語話し言葉コーパスの構築法』国立国語研究所報告 124. URL: [http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/corpus/cs\\_j\\_report/](http://www.kokken.go.jp/katsudo/seika/corpus/cs_j_report/)
- 前川喜久雄 (2006) 「特定領域研究『日本語コーパス』のめざすもの」特定領域「日本語コーパス」平成 18 年度全体会議予稿集, pp.1-8. (URL: [http://www2.ninjal.ac.jp/kikuo/tokutei\\_H18\\_1.pdf](http://www2.ninjal.ac.jp/kikuo/tokutei_H18_1.pdf))
- 丸山岳彦 (2007) 「デスネ考」串田秀也ほか編『時間の中の文と発話』ひつじ書房, pp.35-65.

<sup>1</sup> CSJ の最新版については以下を参照:

[http://www.ninjal.ac.jp/cs\\_j/](http://www.ninjal.ac.jp/cs_j/) 現在, 第3刷が公開されている。本研究では, 第2版に同梱されている, 山口昌也氏ほかにより作成された全文解析システム「ひまわり」用の解析済みコーパス 396 講演分のデータ (人手修正済み, 約 101 万語) を使用した。

<sup>2</sup> 今回は, 現在公開準備中の改訂版データを用いる。BTS は以下の会話データ群からなっている。

1. 親しい同性友人同士 (男女) の雑談
2. 初対面と友人同士の女性の雑談
3. 論文指導
4. 女性同士の断りの電話会話
5. 同性同士男女の依頼を含む電話会話
6. 友人同士の女性の雑談